



R I. 第2620地区 静岡第2分区
三島西ロータリークラブ

週報

第1777号

事務所 静岡県三島市中央町4番9号 2F
TEL (055) 976-6351 FAX 976-6352
例会場 静岡県三島市本町14-31 みしまプラザホテル
TEL (055) 972-2122
会長 岩崎 守幸 幹事 飯田 守



広重版画より 三島 朝霧

第1839回例会

2010.5.20晴

司 会

森崎祐治君

ロータリーソング

「日も風も星も」
指揮 前田房江君

会長挨拶

会長 岩崎守幸君

本日の例会に、駐日経済文化代表処の副代表羅坤燦様、文化部部长斯吉甫様、大変お忙しい中、国際交流の貢献にあたり三島西ロータリークラブの受賞に際し、ご来臨賜りまして誠に喜びとともに光栄でございます。

三島西ロータリークラブが1982年にクラブ創立10周年記念に国際奉仕事業として国際ロータリー3500地区苗栗ロータリークラブと三島西ロータリークラブの姉妹クラブの締結がなされ、当時R I会長のメッセージでありました「ロータリーを通じて世界理解と平和を」を具現し、当クラブの歴史に輝かしい一頁が刻まれ、又、その後年輪のごとく24年という永久の国際交流が出来ました事は、両クラブの会員、ご家族そして行政の皆様の温かいご支援とご協力の賜であります。

今はインターネットで地球の裏側のニュースさえ簡単に手に入るようになりました。本当に便利な世の中です。しかし、この便利な社会に過ごされているみなさんは、人と触れ合うことから得られる大切なものが得られなくなってきています。私たちの交換学生事業は感受性の多い青年期に、目で見、耳を傾けるだけではなく、体全体で日台両国を感じて、吸収し、研修で学んだことを糧にして日台の交流と相互の発展に尽くしております。

過去の歴史は変えることは出来ませんが、新しい未来

の歴史を築く為に細く長くお付き合いをし、台日親善の為ひいては世界恒久平和に通じる事を念じて挨拶いたします。

“こんにちは、ようこそ”

ゲスト 羅坤燦さん
(台北駐日経済文化代表処 副代表)
斯吉甫さん
(台北駐日経済文化代表処 文化部部长)

出席報告

	出席総数	出席率	メークアップ	修出席率
前々回	45/52	86.54%	50/52	96.15%
今回	42/52	80.77%	会員総数	55名

欠席者 石井(彰)君、亥角君、窪田君、栗田君、黒田君、鈴木(貞)君、諏訪部(敏)君、野口君、花房君、渡辺君

マルチプル・ポール・ハリス・フェロー表彰



望月 哲也君

2009～2010年度
国際ロータリー会長
ジョン・ケニー

ロータリーの未来はあなたの手の中に

スマイルボックス

- ◆岩崎君、国際奉仕事業として、24年間交換学生事業の受賞に際し、皆様に心より感謝を申し上げます。
- ◆鈴木(雅)君、清水銀行三島支店、5月24日に新築移転オープンします。昨年のクリスマス会に来ていただいた奏鳴曲(そなた)さんにご出演をお願いするなど、24、25の両日はイベントも開催予定です。お時間がありましたら、どうぞお立ち寄り下さい。
- ◆室伏君、フロント車路工事につき大変ご迷惑をおかけいたします。ホテル裏口(南口)駐車場又は市営駐車場をお願いいたします。
- ◆米山君、早退します。

ご挨拶

台北駐日経済文化代表処
副代表 羅坤燦さん

岩崎会長、並びにご臨席の皆様こんにちは。ただいまご紹介いただきました中華民國台湾政府の駐日代表処副代表・羅坤燦でございます。本日、貴三島西ロータリークラブ例会にお招きいただき、誠に光栄に存じます。心から厚くお礼申し上げます。馮代表からも皆様方よろしくと申しておりました。

さて、私は30数年前に米山奨学生として日本に留学し、明治大学大学院を卒業しました。それから20数年間、外交官として台湾と日本の架け橋として今まで歩んでこられたのは、ロータリアンの皆様方のご支援の賜物でございます。私が米山奨学生だったときは、東京港南ロータリークラブに所属しておりまして、当時よく例会に参加した品川のパシフィックホテルの前を通るたび、当時ロータリアンの先輩方にお世話になったことを思い出します。

三島は日本のロータリークラブの創始者である米山梅吉先生が育った地であり、米山先生と大変ゆかりがございます。今回私は米山先生のお墓参りをさせていただく機会も出来ました。心から感謝を申し上げます次第でございます。

貴ロータリークラブは、熱心且つ長きにわたる特別な計らいで、1982年にわが国の苗栗のロータリークラブと姉妹社を締結されました。未来の青少年の為、青少年交換事業を推進し、台湾の学生訪問団を貴国の家庭で温かくもてなして下さり、又、日本の学生を連れて台湾を訪問され、24年間に24回もの相互訪問交流が行われました。この長きにわたる台日両国の交流を通じた素晴らしい貢献に対し、岩崎会長ならびに会員の皆様の地道な努力に敬意と謝意を申し上げます。

ご存知のように、台日両国はともに西太平洋に位置する隣国の島国であり、古くから地理的、歴史的な関係が深く、各分野の交流が密接で、往来も極めて頻繁であります。例えば、去年の例として、台日間を相互往来した観光客はそれぞれ100万人を超え、双方の往来は合わせて年間250万人に達しています。

台湾の人口は2300万人、外貨準備高は世界第4位、対外貿易高は世界第16位であり、日本の交流協会台北事務所が昨年行った台湾人を対象にした意識調査によると、台湾人が最も好きな国は日本であり、続く米国やスイスを大きく上回っていました。また、当代表処が昨年日本人の台湾に対する意識調査を行ったところ、76%が「台日関係は良好である」、65%が「台湾は信頼できる」と考えていました。また、約20%が台湾への渡航歴がありました。

このような台日両国の関係を、馬英九総統は「台日特別パートナー関係」と位置づけ、昨年台湾政府は「台日特別パートナー関係促進年」として、台日関係の強化に努めてまいりました。今日、5月20日はちょうど馬英九総統が就任して2周年を迎える日であります。馬総統は就任以来、日本との関係をたいへん重視しており、その成果が徐々に形になりつつあります。

最近の台日間の状況について申し上げますと、今年10月に東京羽田空港と台北市内の松山空港を結ぶ直行便が就航します。若者にワーキングホリデービザを発給する制度も、昨年6月からスタートしました。また、我々は毎年25万人近くの北海道を観光する台湾人をサポートするために、昨年12月1日、札幌市に当代表処の支処を開設しました。そして、台湾の新政府は今年の4月21日に東京に「台北文化センター」をも開設し、国立故宫博物館の文物を、近く日本で展示できるように積極的に進めています。このほか、台湾の国立政治大学には、昨年9月に日本研究センターが開設され、今後、新たな台日関係を切り開く次世代の知日派を育成していきます。

台湾と日本は、自由、民主主義、人権の尊重などの価値観を共有しています。この価値観を基本として、台湾と日本との緊密な関係を今後もっと強化していきたいと思っています。

